

漢法苞徳塾資料	No. 045
区分	診断
タイトル	奇経の診断の問題
著者	八木素萌
作成日	

## 脈診の問題

★奇経脈図（城戸勝康）の説★ @は黄説・細い線も黄説

	督 任 衝	
寸		督は浮 @弦長
関		任は沈 @緊細而長
尺		衝は任よりも沈 @弦長堅実

	陽維脈	
	左   右	@至寸而浮
寸		
関		
尺		

	陰維脈	
	左   右	@至寸而沈
寸		
関		
尺		

	陰蹻脈	
	寸   関   尺	
浮		
中		
沈		@両尺俱沈緊而細

	陽蹻脈	
	寸   関   尺	
浮		
中		
沈		@両寸俱浮緊而細

	帶脈	
	寸   関   尺	
浮		
中		
沈		@両関俱彈滑而緊

## ★清・黄宮綉『脈理求真』の説★

- ◎督脈……弦長而中央浮（寸関尺三部俱浮弦長）、病苦脊強不能俛仰、（属風）  
◇輕取弦長而浮（六脈皆見）主風傷身後総摂之陽・故脊強不能俯仰◇
- ◎衝脈……弦長而中央牢（寸関尺三部俱牢弦長）（牢＝堅実）、病苦逆氣裏急、（属寒実）  
◇按之弦長堅実（六脈皆是）主寒傷身前衝要之陰・故氣逆裏急◇
- ◎任脈……脈横寸口（寸口統寸関尺三部而言）辺丸々（形如豆粒）緊細而長、病苦少腹切痛・男子内結七疝・女子帶下積聚、（属寒実）  
◇緊細而長（六脈形如豆粒）主寒傷身前承任之陰・故少腹切痛◇
- ◎陽維脈……尺内斜上至寸而浮（從左尺斜向小指・至寸而浮・曰尺内）、病則寒熱溶々不能自収持、（属陽）  
◇右尺内斜至寸而浮・主邪傷一身之表・故寒熱不能自持◇
- ◎陰維脈……尺外斜上至寸而沈（從右尺斜向大指・至寸而沈・故曰尺外）、病苦心痛悵然失志。（属陰）  
◇左尺外斜至寸而沈・主邪傷一身之裏・故心痛失志◇
- ◎陽蹻脈（主陽絡）……兩寸浮緊而細（寸口左右彈浮而細綿綿）、病苦陰緩而陽急（邪在陽絡主表・如腰背苦痛之類）。  
◇兩寸左右彈浮緊細・主邪傷左右之陽・故腰背苦痛◇
- ◎陰蹻脈（主陰絡）……兩尺沈緊而細（尺内左右彈沈而細綿綿）、病苦陽緩而陰急（邪在陰絡主裏・如少腹痛陰疝漏下之類）。  
◇兩尺左右彈沈緊細・主邪傷左右之陰・故少腹切痛◇
- ◎帶脈……中部左右彈而横滑（兩関滑緊）病苦腹痛腰溶々若坐水中（邪在中）  
◇兩関左右彈滑而緊・主邪傷中腰帶束之处・故腰腹痛◇

## 奇経の切診の問題

## ◇中島式の奇経運動診（丸山莊平氏）

## ★主として運動時の違和感で診る

- ・督 脈→首の前屈時および深い回旋時
- ・衝 脈→首の軽い回旋時
- ・任 脈→首の左右屈時
- ・陽維脈→首の後屈時および左右屈（同時に肩にも感じる）
- ・陰維脈→首の軽い回旋時
- ・陽蹻脈→首の深い回旋時および首の前屈時
- ・陰蹻脈→首の左右屈時（同時に肩にも感じる事有り）
- ・帶 脈→首の後屈時

## ◇伊藤氏の奇経診断法

## ★主としてセットの圧痛反応で診る

- P-I（帯＝陽維）→鎖骨点・膝蓋骨外側前面・後上腸骨棘
- P-II（陽蹻＝督）→大腿骨外側顆・腰仙関節
- N-I（陰維＝衝）→膝蓋骨内側前面・L<sub>1~4</sub> 棘突起（左側の圧痛が多い）・  
階段の上り下り時の膝痛
- N-II（任＝陰蹻）→大腿骨内側顆・次髌穴・階段および坂を下る時の膝痛

## ◇入江・小田法の奇経腹診法

## ★主として腹部の切診で診る

「塾資料『腹診』を参照の事」、圧痛点を次の様に見ている。

- ★督 脈→小腸俞・膀胱俞
- ★衝 脈→胸腹の腎経上・足脾経上・気舎・盲俞・三陰交・公孫
- ★任 脈→任脈上の反応
- ★陽維脈→居髌・臑俞・風池・陽交・肩井・足胆経および手三焦経上の反応
- ★陰維脈→胸部の任脈、腹部の脾経、足部の腎経、手部の心包経などで圧痛反応・  
天突・期門・大横・築賓などの圧痛反応
- ★陽蹻脈→肩髃・居髌・跗陽・膀胱俞・小腸俞・顔の胃経、下肢膀胱経、  
背部膀胱経II線などでの圧痛反応
- ★陰蹻脈→人迎・缺盆・交信・照海、胸部の胃経・腎経・肺経上での圧痛反応
- ★帶 脈→帶脈・章門・腎俞・志室などの圧痛反応

